

06.4.28

地域ニュース 第2ページ



られた。元浜、道意地区と大浜地区の住民同士のコミュニケーションが図ることを願って、「であります」橋と名付けられた。

近年、物流の変化でトラックが船

柱が立ち、三つの橋脚を吊る構造となっている。人々や自転車が通行できなかった運河沿いを整備し、水と親しみのある遊歩道も設けられた。歩道は板張りで運河に張り出したデッキもある。

阪神電車出屋敷駅で下車。西に歩くと蓬川にあたる。川の西側には遊歩道があり、南下すると北堀運河に合流する。県阪神南県民局は、臨海部の散策コースを案内した方

イドマップ「阪神なぎさ回廊・スポーツ」を作成。尼崎港管理事務所(06・6412-1361)などで配布している。

高度成長期、阪神工業地帯の中心として発展してきた尼崎。臨海部には、工場に資材の搬入や製品の出荷に使われた北堀・中堀・西堀の3本の運河が通っている。その北堀・中堀運河の合流地点に98年7月、Y字型で三方から通行できる橋が架け

橋のデザインは、かつて運河沿いにあった関西熱化学のガスタンクをイメージしたもの。円形に18本の支柱張りで運河に張り出したデッキも

がさき」スタートした。



写真・文 山田哲也

□□□25

工都の名残とどめる交流ブリッジ



北堀運河にかかる「であります」橋。ここから尼崎開門(1710年)や5月31日に才一パンする「尼崎の森中央緑地」に足を伸ばすのも良い